

2012年12月期 決算説明会



2013年2月28日
中央化学株式会社
(JASDAQ スタンド:7895)

I) 2012年12月期 決算実績

II) 2013年12月期 決算見通し

III) 今後の展望

(I) 2012年12月期 決算実績

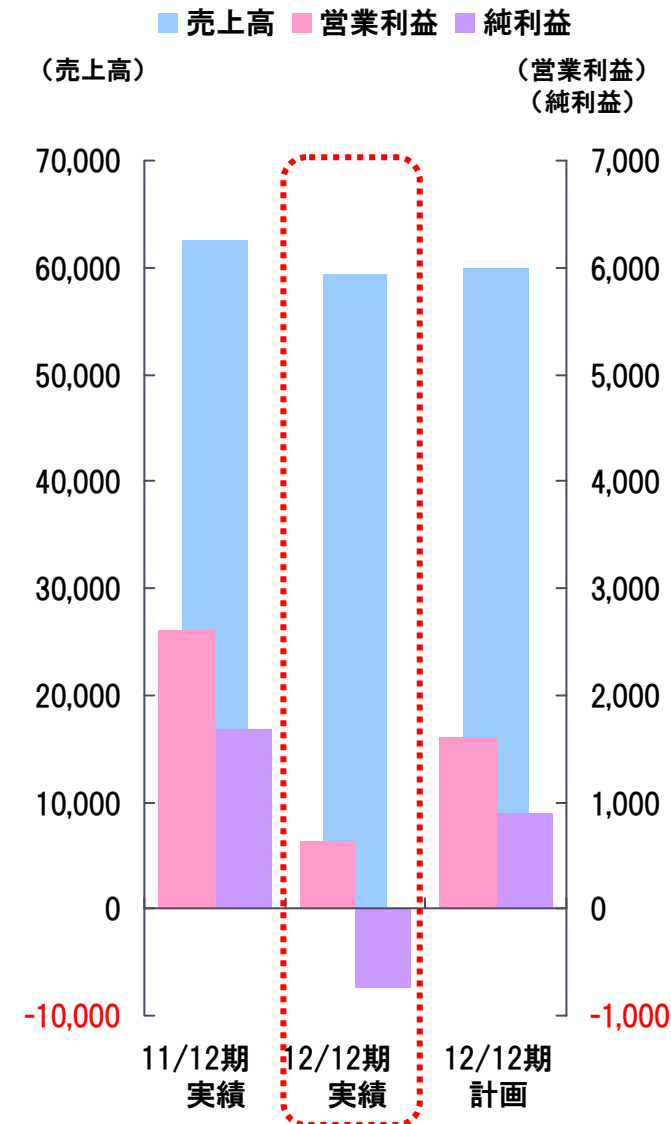
 中央化学株式会社

12/12期決算の実績

中央化学株式会社 4

(単位:百万円)

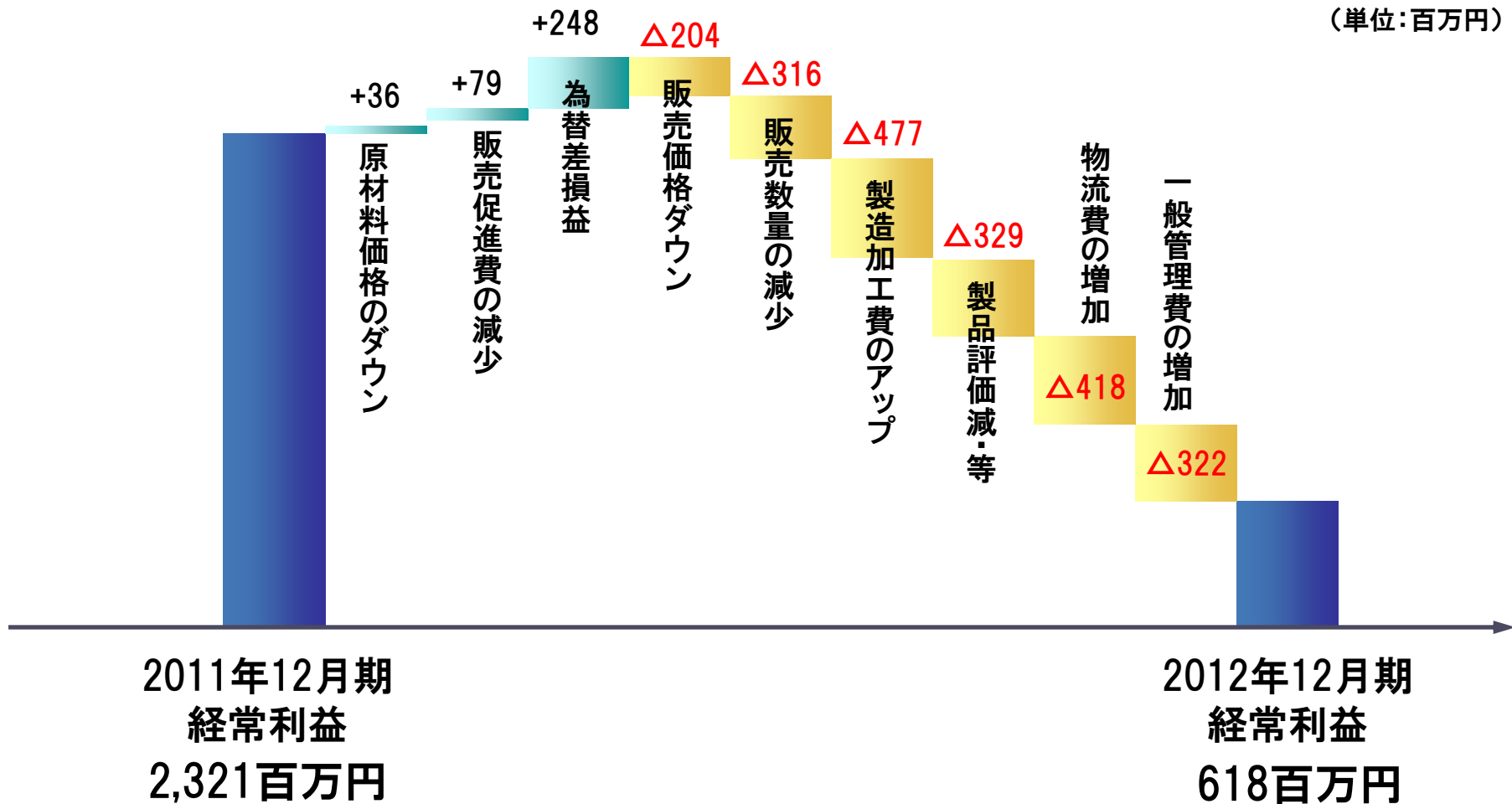
	11/12期	12/12期			
	実績 (構成比)	実績 (構成比)	前期比	計画 (構成比)	達成率
売上高	62,480 (100%)	59,413 (100%)	△4.9%	60,000 (100%)	99.0%
売上 総利益	14,060 (22.5%)	12,387 (20.8%)	△11.9%	13,300 (22.2%)	93.1%
営業利益	2,610 (4.2%)	628 (1.1%)	△75.9%	1,600 (2.7%)	39.3%
経常利益	2,321 (3.7%)	618 (1.0%)	△73.4%	1,200 (2.0%)	51.5%
当期 純利益	1,686 (2.7%)	△741 (-)	-	900 (1.5%)	-



※ 2012年12月期の計画は2012年8月9日に発表した修正値です。

経常利益の増減分析

(単位:百万円)



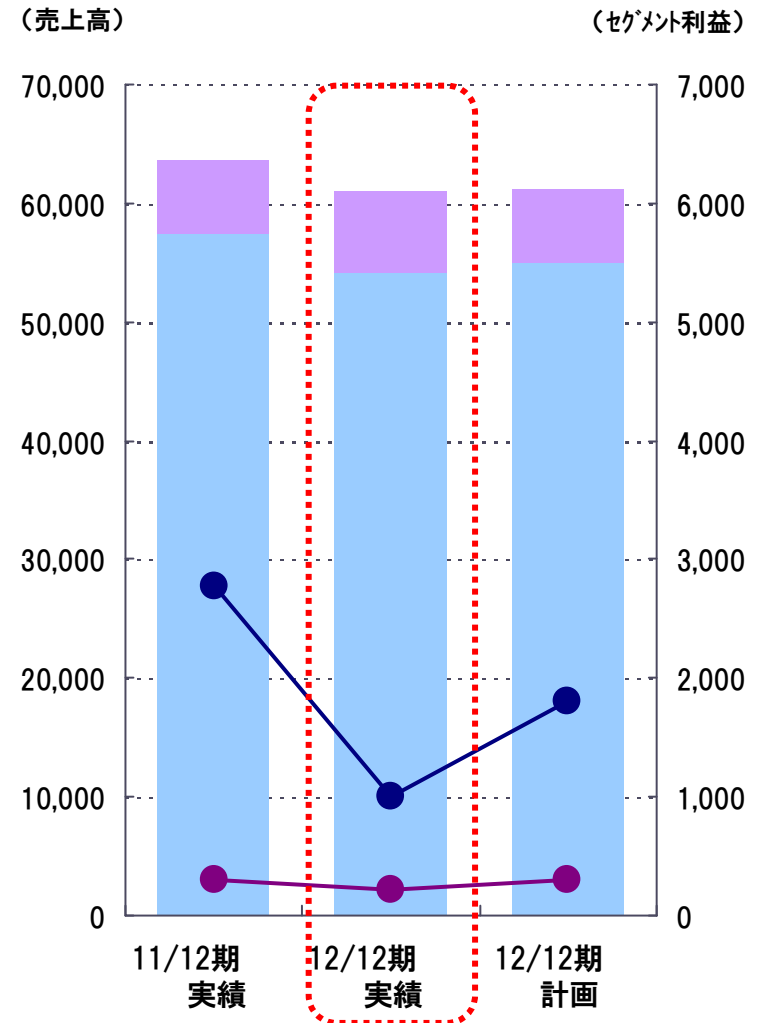
報告セグメントの売上高と利益

中央化学株式会社 6

(単位:百万円)

		11/12期	12/12期			
		実績	実績	前期比	計画	達成率
日本	売上高	57,443	54,140	△5.8%	55,000	98.4%
	セグメント利益	2,769	1,001	△63.8%	1,800	55.6%
アジア	売上高	6,260	6,759	8.0%	6,200	109.0%
	セグメント利益	303	222	△26.7%	305	72.8%

※ セグメント利益(営業利益)



貸借対照表の実績

中央化学株式会社 — 7 —
(単位:百万円)

	11/12期	12/12期	増減額	主な増減要因
流動資産	30,801	27,523	△3,278	
現金及び預金	7,902	5,153	△2,749	短期借入圧縮
受取手形及び売掛金	13,111	11,655	△1,456	受取手形△857、売掛金△599
商品及び製品	5,310	5,791	481	製品在庫増
その他	4,478	4,924	446	
固定資産	20,544	20,543	△1	
有形固定資産	17,992	18,784	792	投資3,200、償却△2,377
(リース資産・純額)	(2,700)	(3,749)	(1,049)	
無形固定資産	395	403	8	
投資その他の資産	2,157	1,355	△802	繰延税金資産△873
資産合計	51,345	48,067	△3,278	
負債合計	36,438	33,502	△2,936	
有利子負債残高	16,303	13,174	△3,129	短期借入圧縮
(リース債務)	(2,909)	(4,002)	(1,093)	
純資産合計	14,907	14,565	△342	(自己資本比率:29.0%⇒ 30.3%)
負債純資産合計	51,345	48,067	△3,278	

キャッシュフローの実績

中央化学株式会社 — 8 —

(単位:百万円)

	11/12期	12/12期	12/12期の主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	3,520	1,999	税引前利益 277、減価償却費(減損含)2,612、売上債権の減少1,706 仕入債務の減少2,255、棚卸資産の増加290
投資活動による キャッシュ・フロー	934	△1,146	固定資産取得 1,174
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,603	△3,947	長期借入金の増加 10,000 短期借入金減少 11,589、長期借入金返済1,532、 リース債務の返済825
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△49	71	
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	1,802	△3,022	
現金及び現金同等物の 期首残高	6,100	7,902	
新規連結に伴う現預金 増加額	—	273	中央運輸 192、セントラル運輸 81
現金及び現金同等物の 期末残高	7,902	5,153	

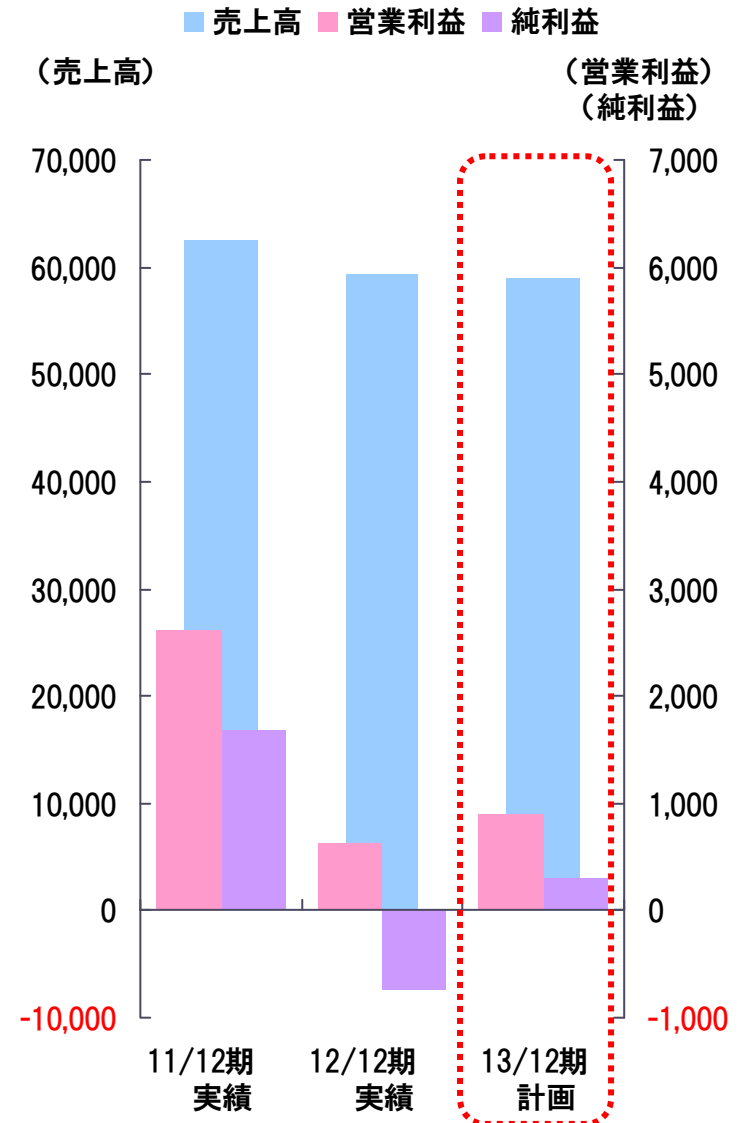
(Ⅱ) 2013年12月期 決算見通し

 **中央化学株式会社**

13/12期決算の見通し

(単位:百万円)

	11/12期	12/12期	13/12期	
	実績 (構成比)	実績 (構成比)	計画 (構成比)	前期比
売上高	62,480 (100%)	59,413 (100%)	59,000 (100%)	△0.7%
売上総利益	14,060 (22.5%)	12,387 (20.8%)	13,000 (22.0%)	4.9%
営業利益	2,610 (4.2%)	628 (1.1%)	900 (1.5%)	43.3%
経常利益	2,321 (3.7%)	618 (1.0%)	600 (1.0%)	△3.0%
当期純利益	1,686 (2.7%)	△741 (-)	300 (0.5%)	-



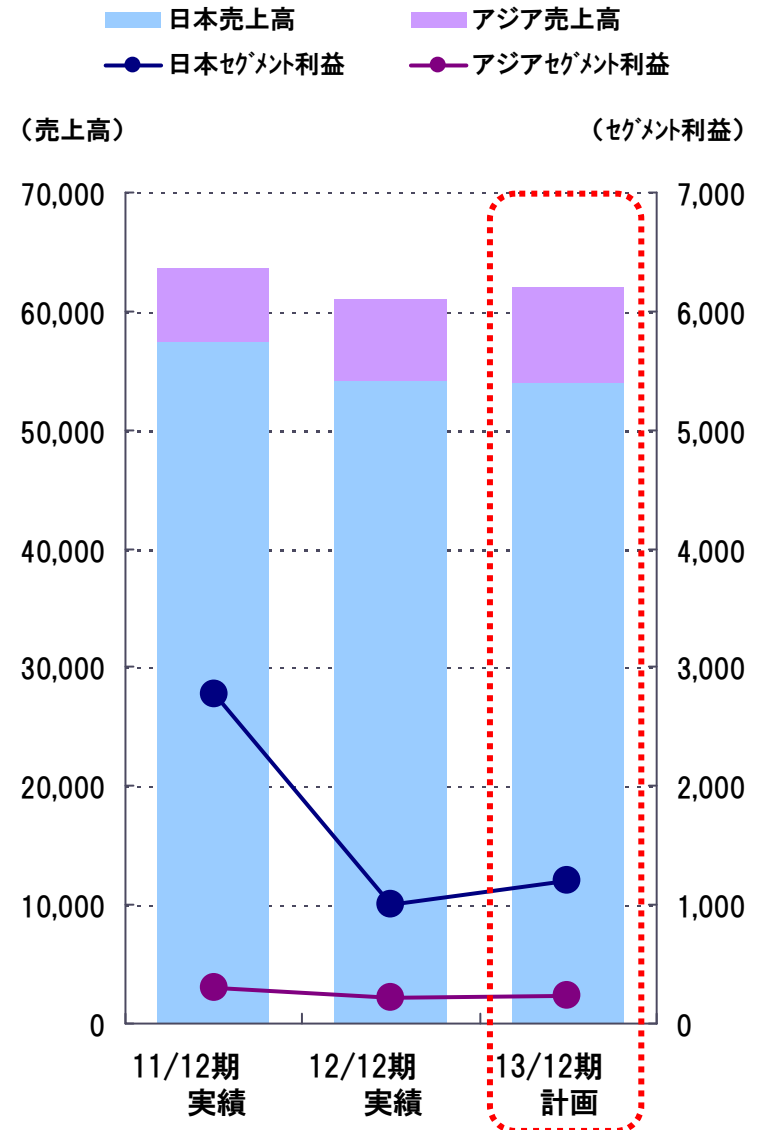
報告セグメントの売上と利益

中央化学株式会社 11

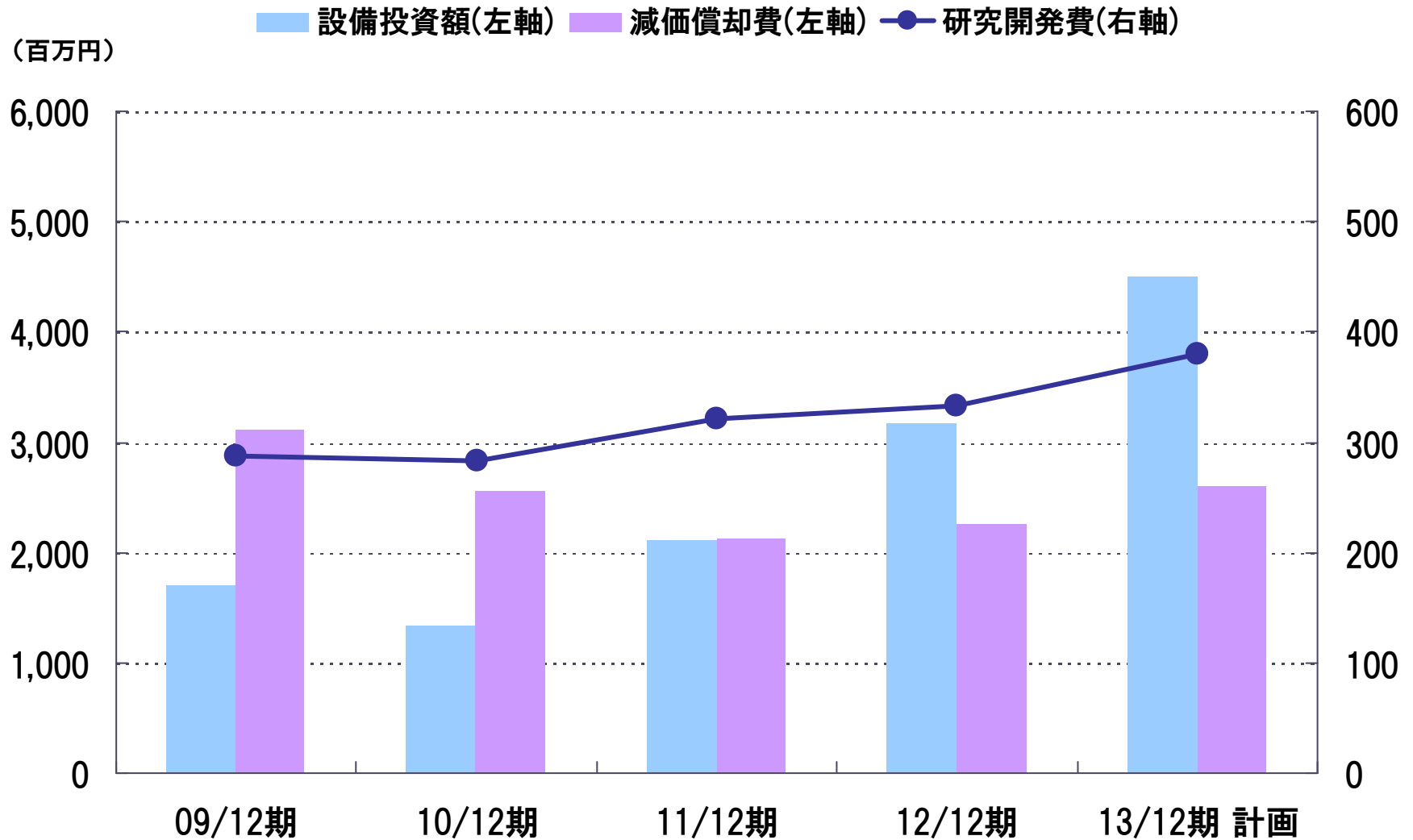
(単位:百万円)

		11/12期	12/12期	13/12期	
		実績	実績	計画	前期比
日本	売上高	57,443	54,140	54,000	△0.3%
	セグメント利益	2,769	1,001	1,200	19.9%
アジア	売上高	6,260	6,759	8,000	18.4%
	セグメント利益	303	222	230	3.6%

※ セグメント利益(営業利益)



設備投資、減価償却及び研究開発の状況



(Ⅲ) 今後の展望

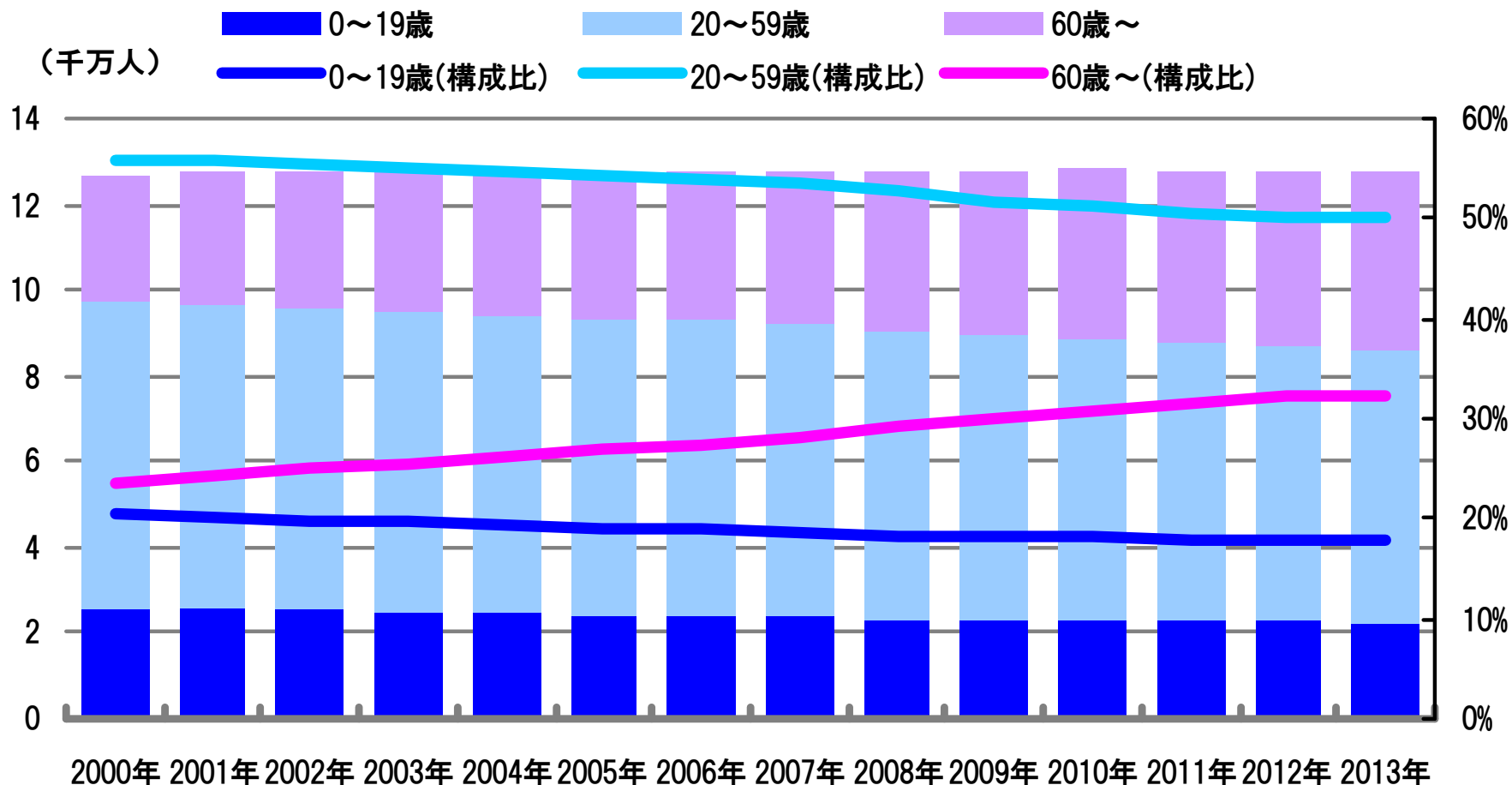
 中央化学株式会社

今後の展望

1.	変化する 事業環境	(1)人口構成の変化
		(2)男女別就労状況の変化
		(3)食品小売市場の変化
2.	人口動態の変化に 対応した技術開発	(1)消費環境の変化
		(2)食品容器として求められる特性
3.	環境政策と 製品戦略の合一	(1)製品開発の基本コンセプト
		(2)環境面で優れた素材の選択
		(3)素材選択のコンセプト
		(4)環境に配慮した製品設計
		(5)高いデザイン性の追求
4.	経営体制の強化	(1)三菱商事による支援
		(2)経営のスピードアップのための取り組み
5.	中国事業	(1)市場の成長スピードに合わせたオペレーションの強化
		(2)今後も期待できる有望市場
		(3)顧客からの高い信頼

1. 変化する事業環境 (1)人口構成の変化

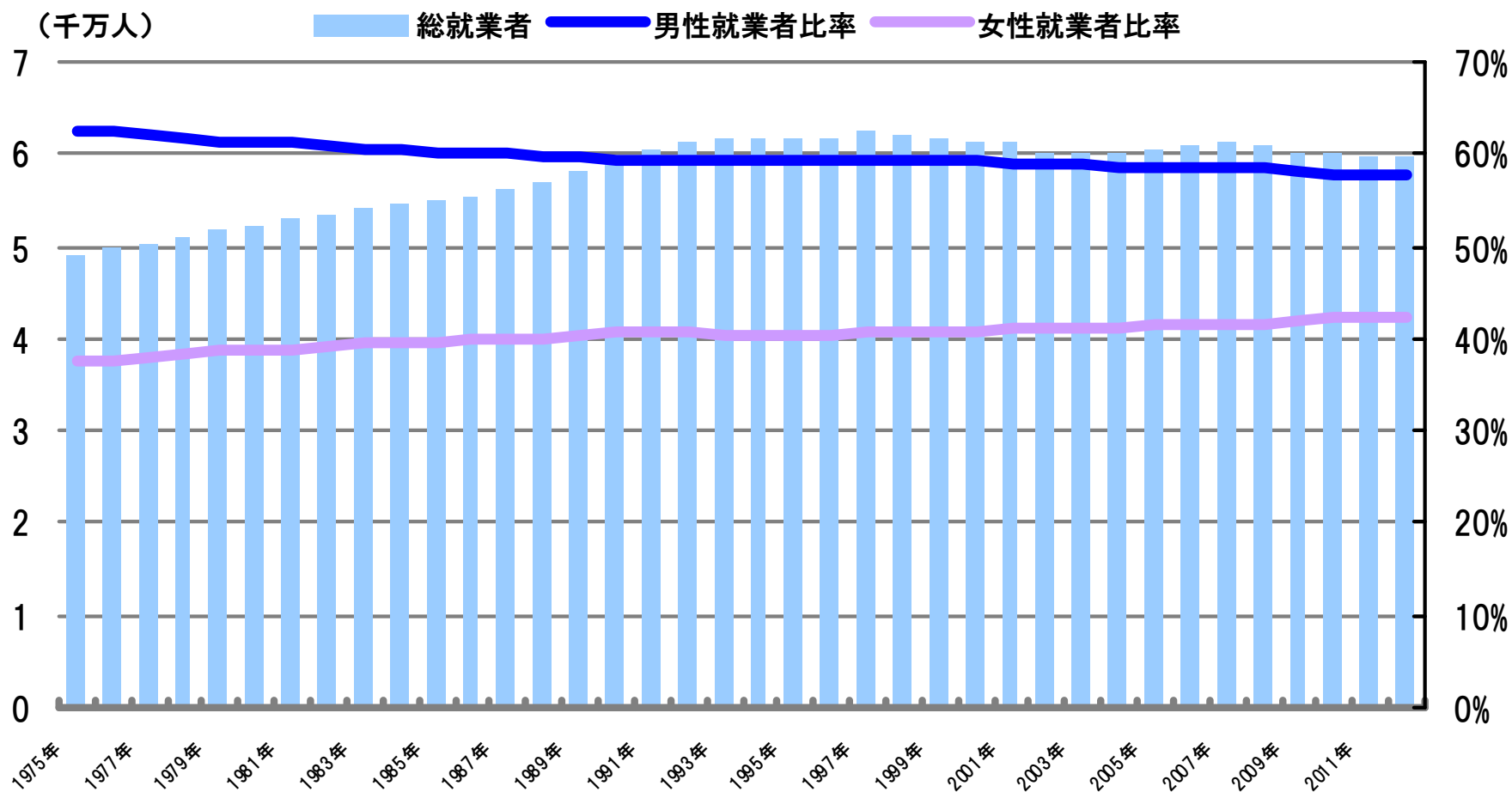
高齢化の進展



(資料)総務省「人口推計」より作成

1. 変化する事業環境 (2)男女別就労状況の変化

高まる女性の社会進出

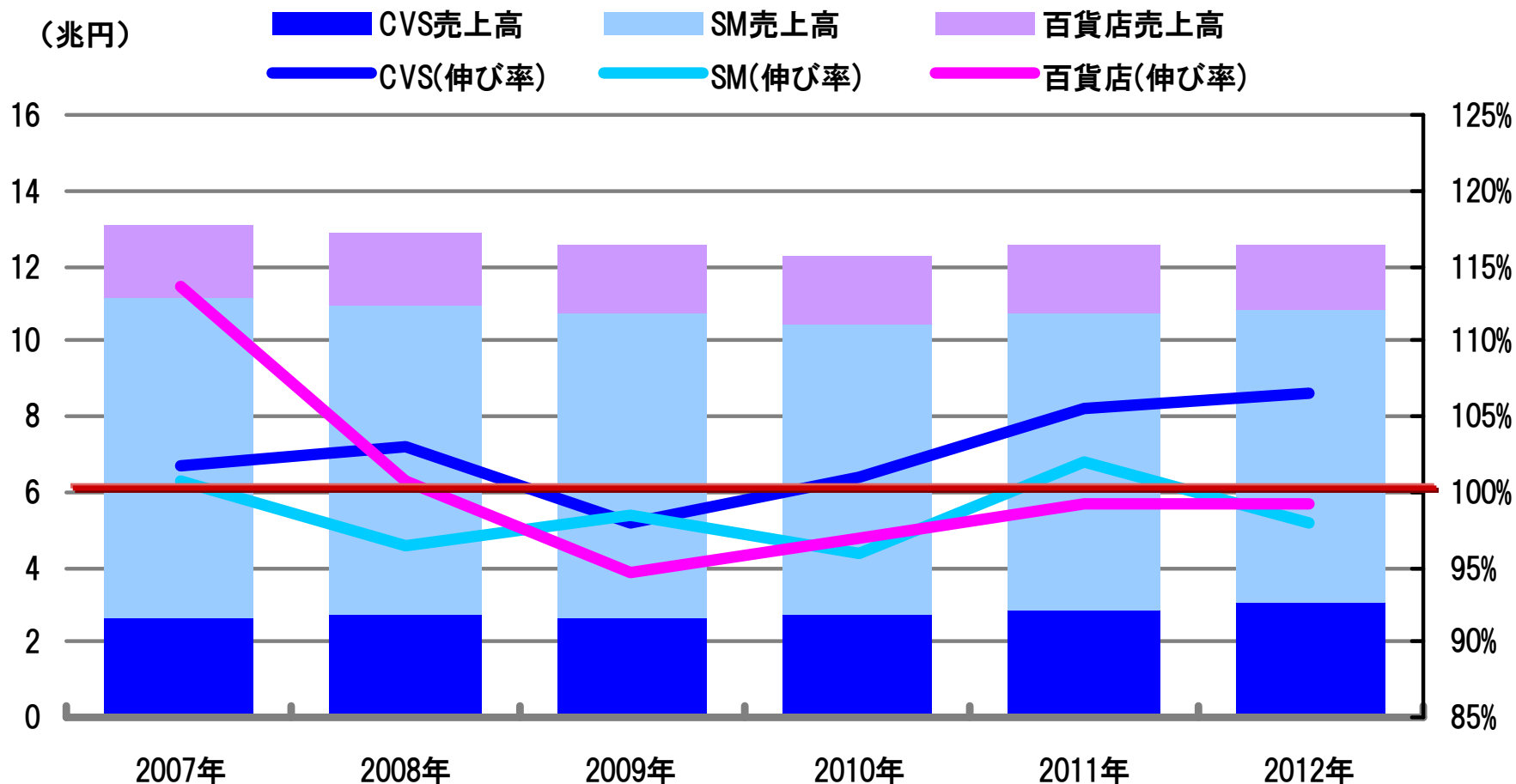


(資料)総務省「労働力調査」より作成

1. 変化する事業環境 (3)食品小売市場の変化

中央化学株式会社—17—

コンビニの一人勝ち⇔スーパー、百貨店の低迷



(資料)日本チェーンストア販売統計集計表(食料品)、コンビニエンスストア統計年鑑集計(日配食品)、全国百貨店売上高(食料品)より作成

2. 人口動態の変化に対応した技術開発 (1)消費環境の変化①

消費者の食品購入行動の多様化

食品容器に求められる市場ニーズの変化

機能性①(安心・安全、衛生性)

+

機能性②(耐熱、断熱、耐油)

環境対応

食のプレゼンテーション(美味しさ、温かさ、意匠性)

価格と機能のバランス

新たに発生する
ニーズへの
対応が必要

既存市場は縮少
新規市場は拡大

過去

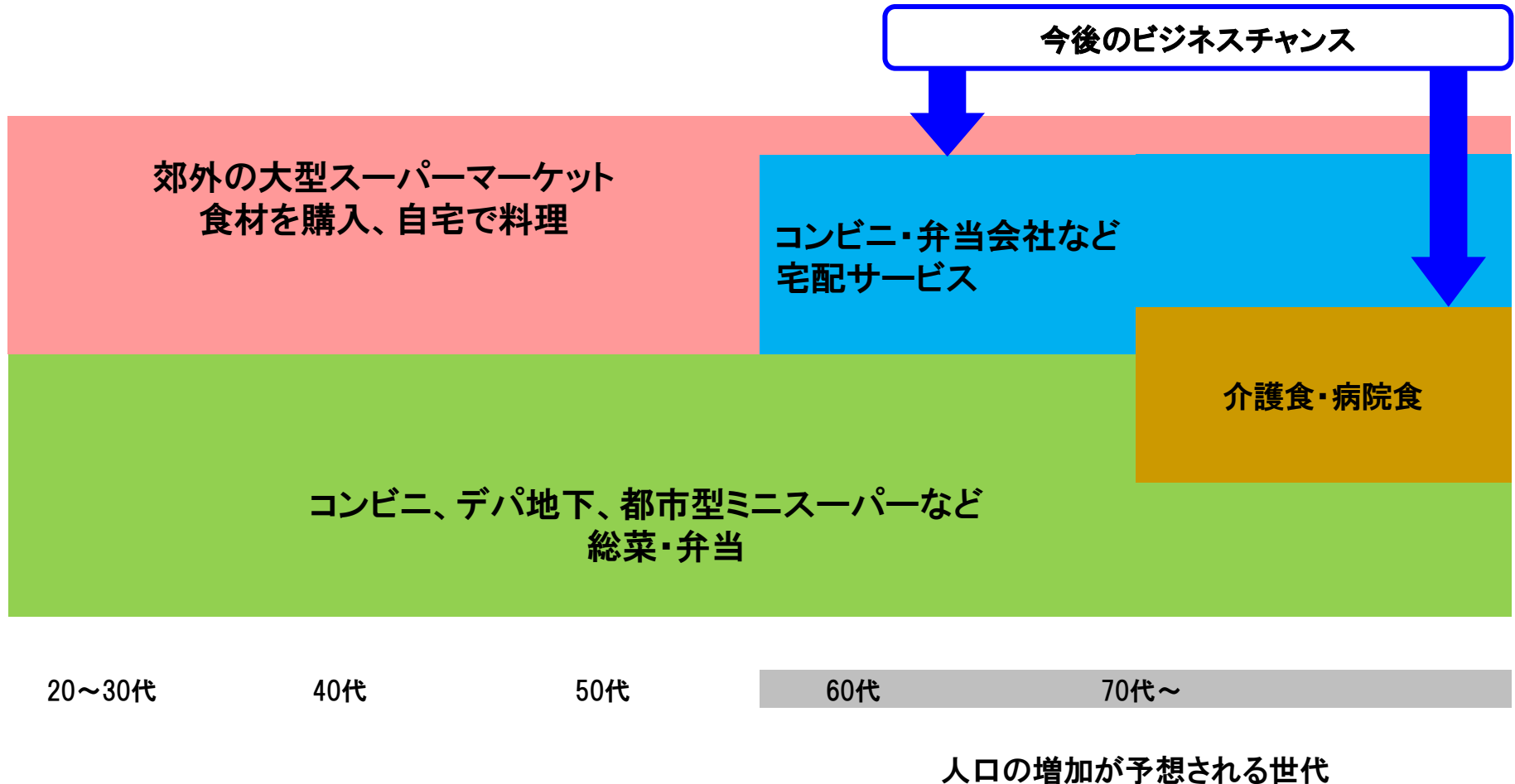
現在

未来



2. 人口動態の変化に対応した技術開発 (1)消費環境の変化②

高齢化と女性の社会進出と共に変化する食の消費行動



2. 人口動態の変化に対応した技術開発 (1)消費環境の変化③

小売業界のニーズ

消費者ニーズへの対応

デフレ対応のための単価アップ

素材販売



総菜販売

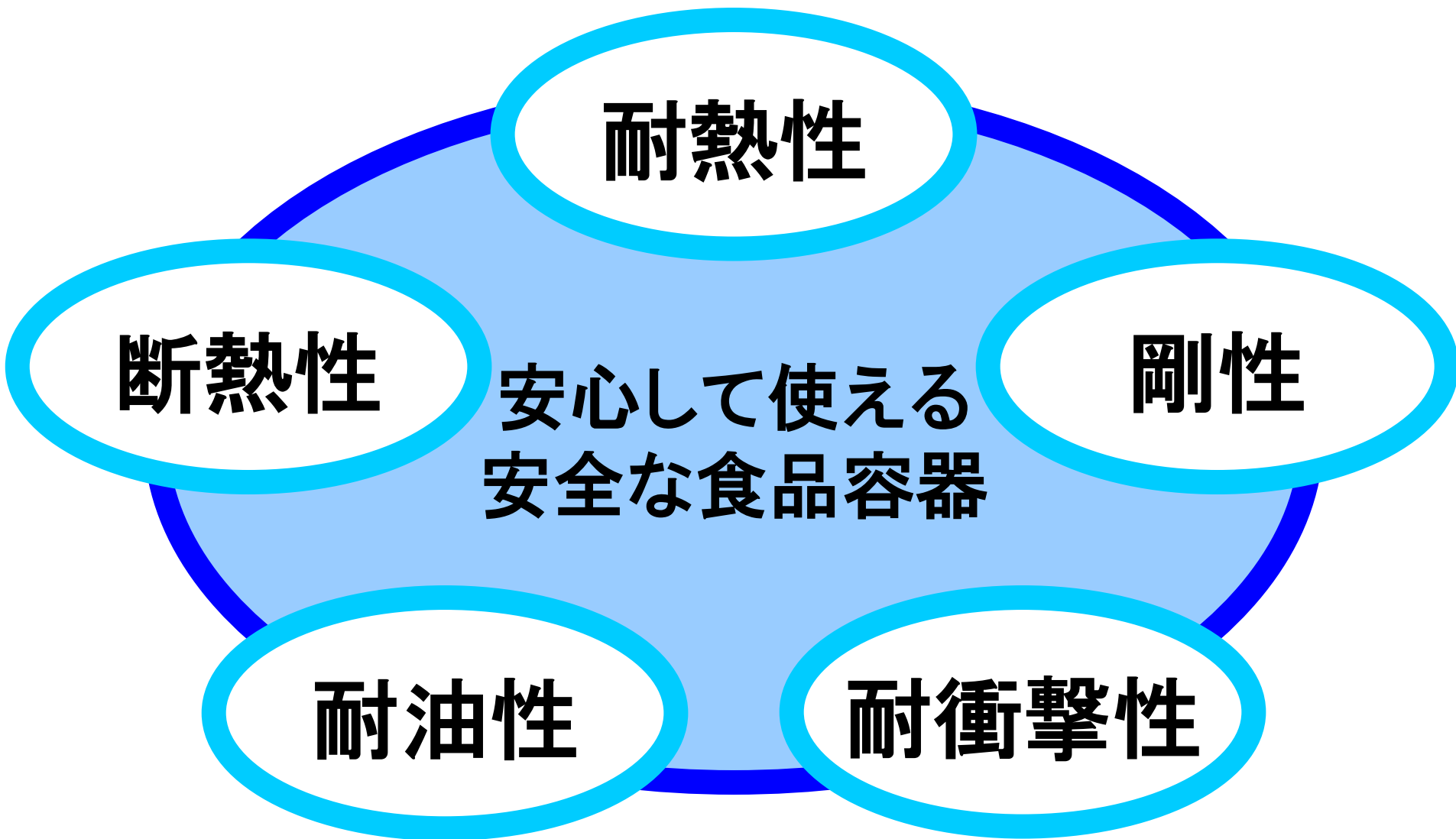


事業環境・ユーザーニーズを先取り

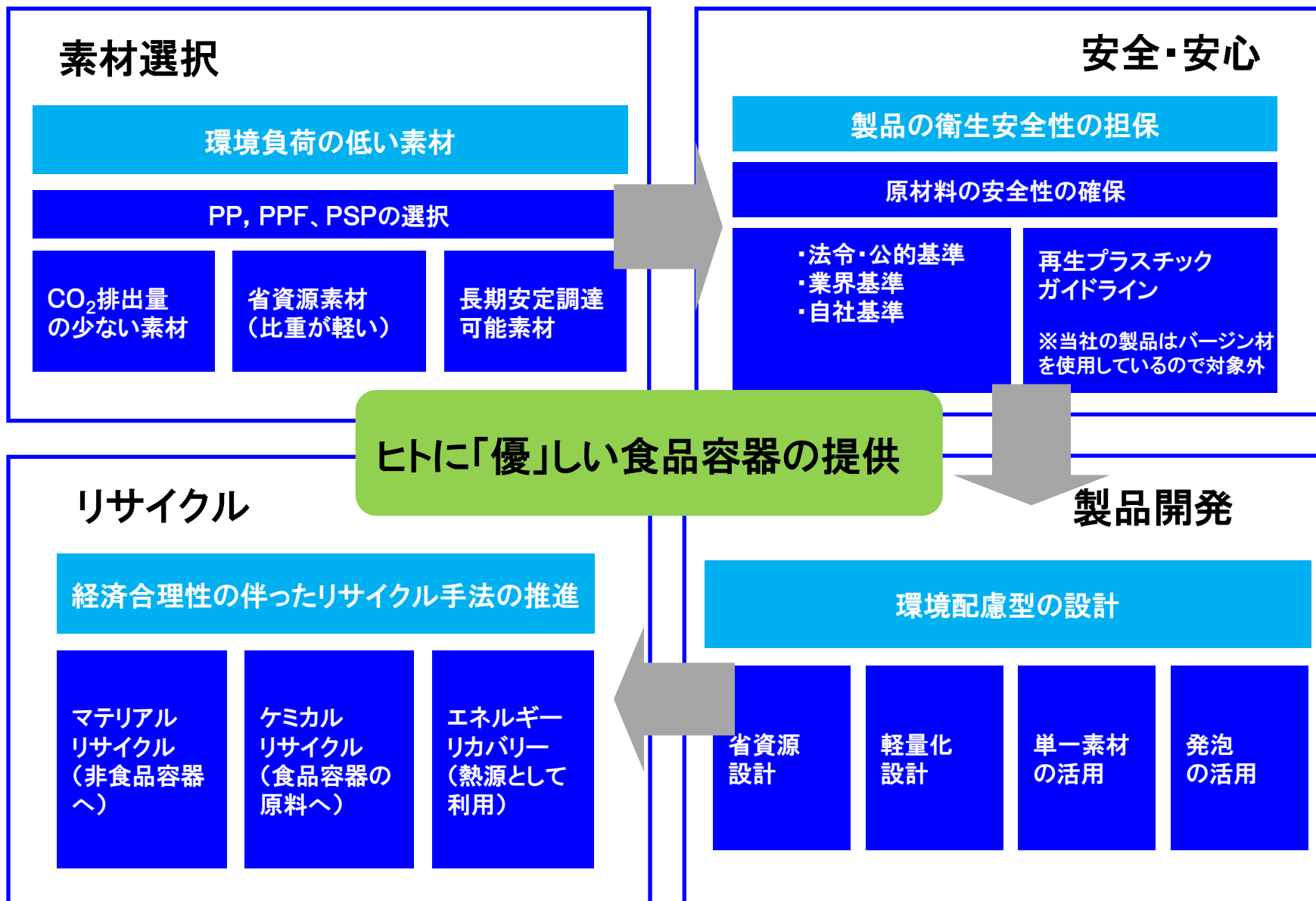
変質する市場の伸びを取り込む

食品容器市場の縮小には
繋がらない

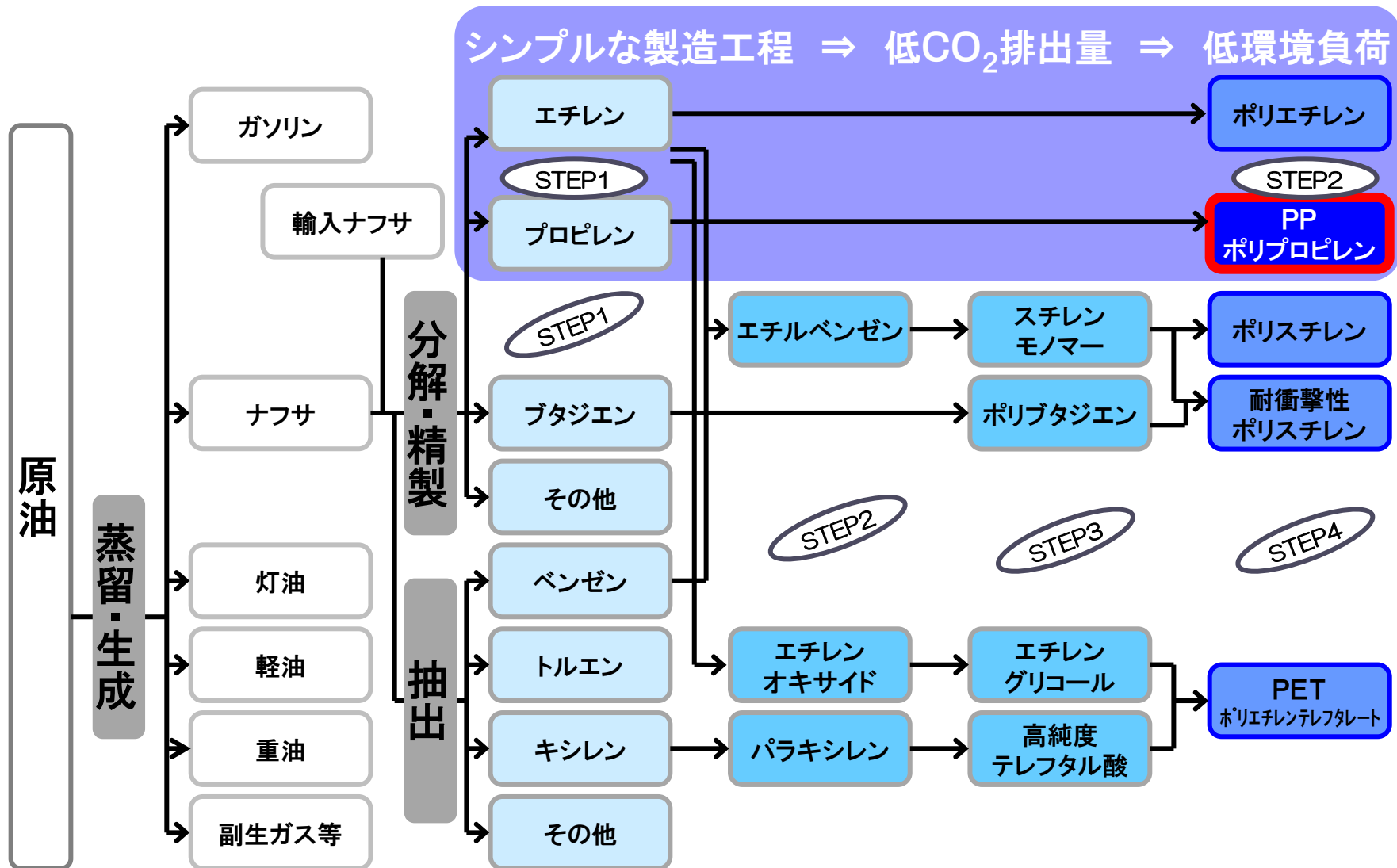
2. 人口動態の変化に対応した技術開発 (2)食品容器として求められる特性



3. 環境政策と製品戦略の合一 (1)製品開発の基本コンセプト

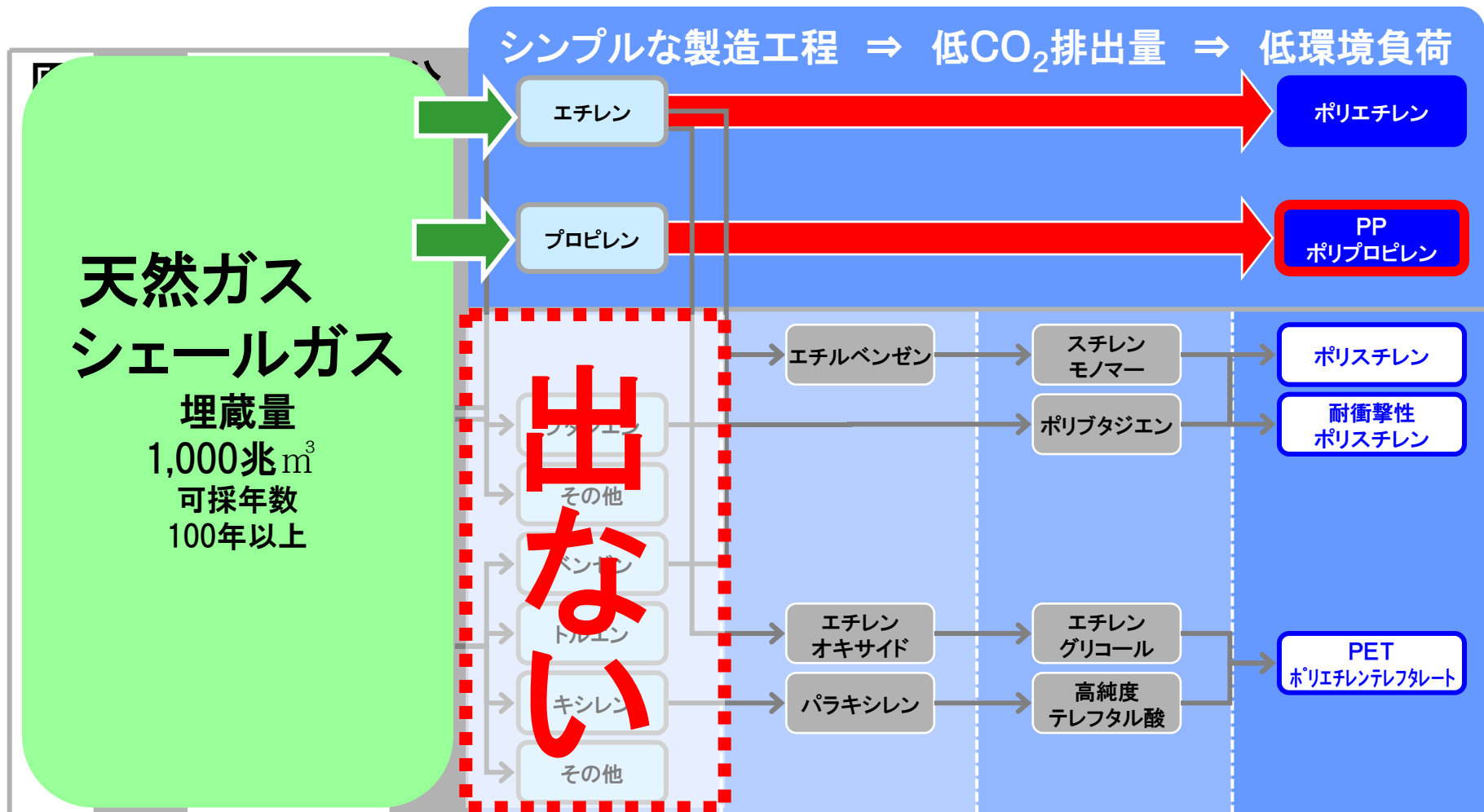


3. 環境政策と製品戦略の合一 (2)環境面で優れた素材の選択

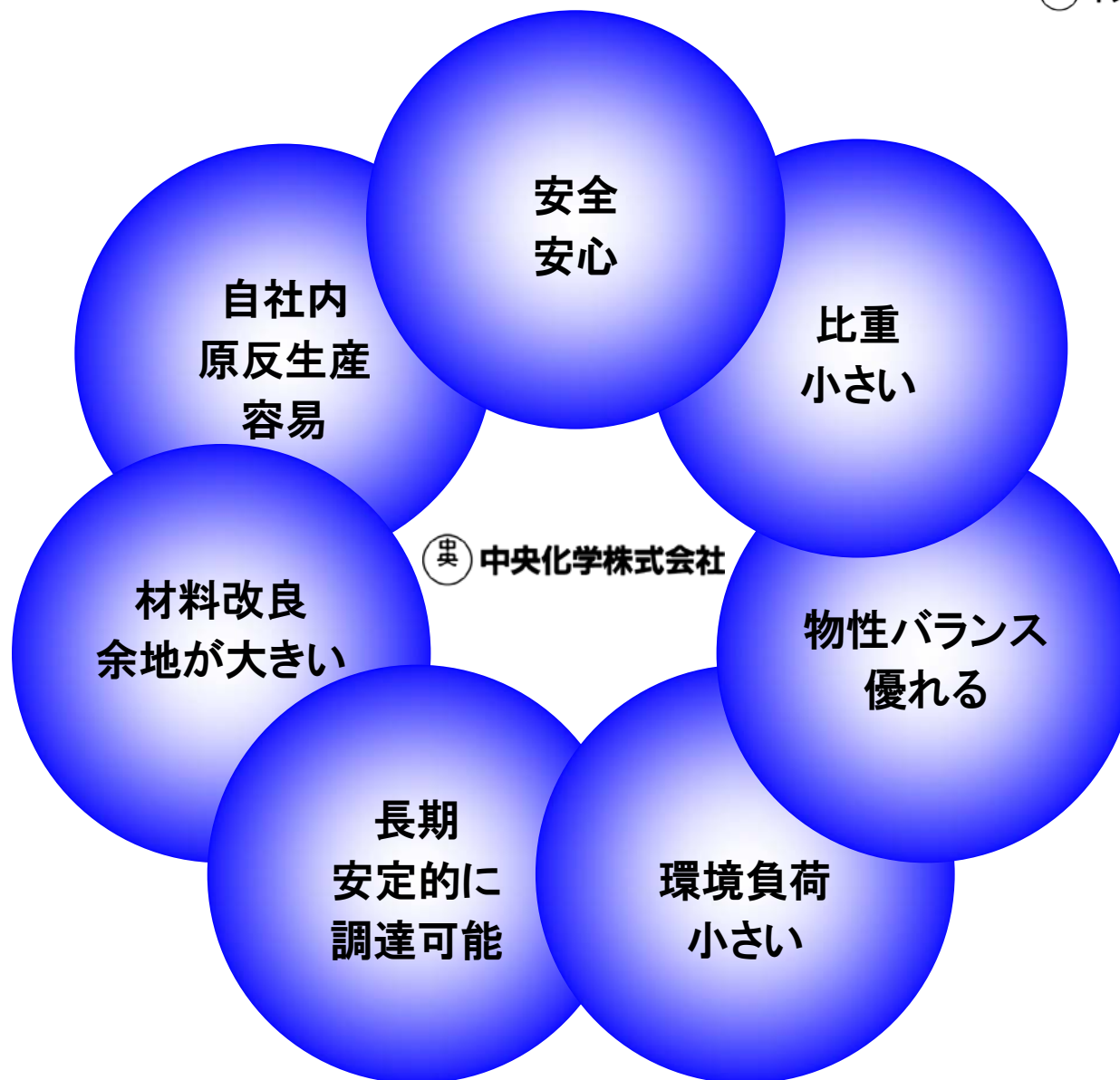


3. 環境政策と製品戦略の合一 (3) 安定的に調達可能な素材の選択

シェールガス革命の影響



3. 環境政策と製品戦略の合一 (4) 素材選択のコンセプト



3. 環境政策と製品戦略の合一 (5)環境に配慮した製品設計



3. 環境政策と製品戦略の合一 (6) 高いデザイン性の追求

機能美を追求したSD・SPP素材



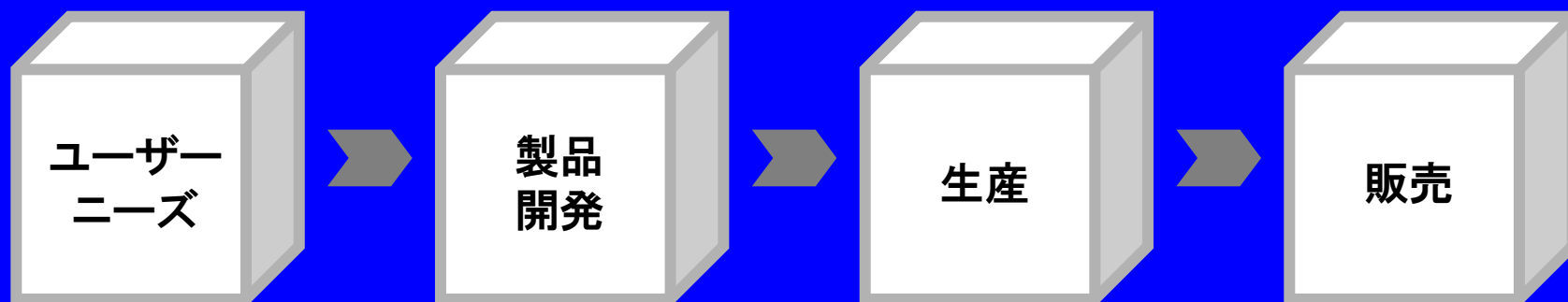
デザイン・機能が女性消費者に好評

4. 経営体制の強化 (1)三菱商事による支援



4. 経営体制の強化 (2) 経営のスピードアップのための取り組み①

ユーザーニーズに迅速に対応した新製品の投入



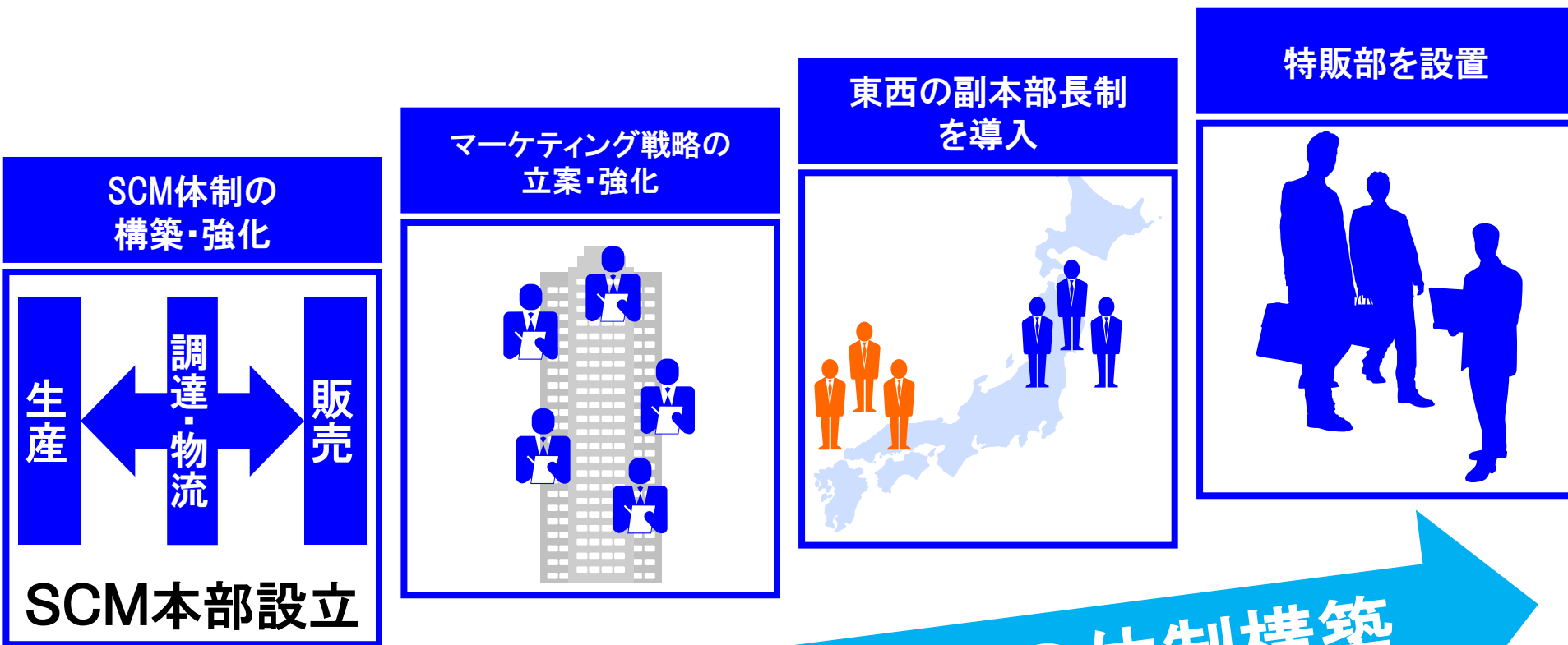
自社で素材を開発してきた歴史
(創業以来のDNA)

製品開発専用設備の導入

高機能・高付加価値製品へのシフト加速

収益拡大

4. 経営体制の強化 (2) 経営のスピードアップのための取り組み②



スピードアップ経営のための体制構築

5. 中国事業 (1)市場の成長スピードに合わせたオペレーションの強化

中央化学株式会社

競争力強化・事業拡大のための
コントロールセンター

環菱中央化学管理有限公司

(当社100%出資の統括会社が始動)

中国総代表 兼

環菱中央化学管理有限公司 総経理

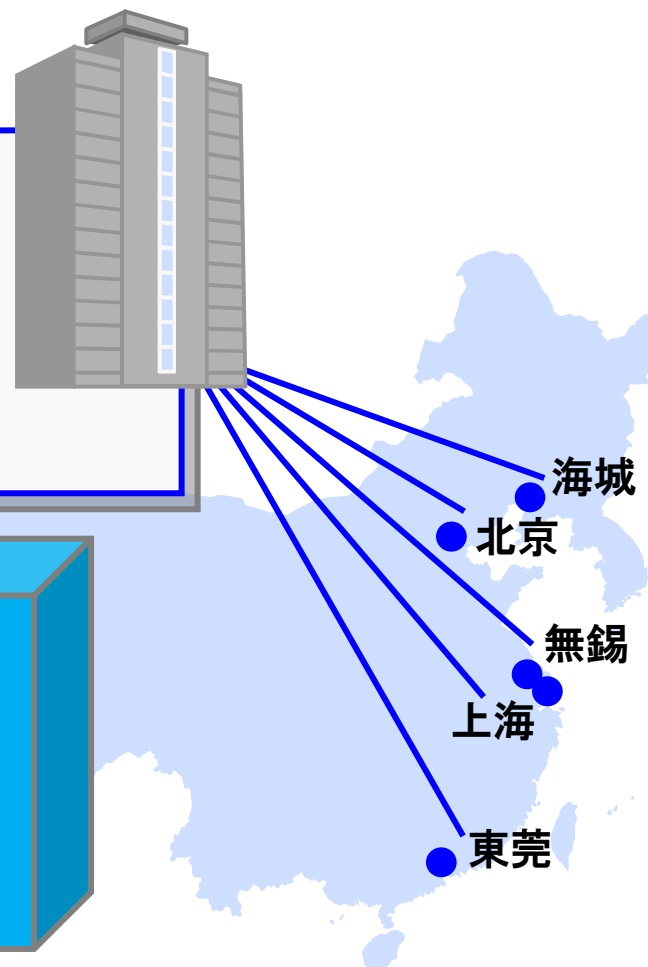
(当社常務執行役員(元天津三菱商事社長))

一元管理

販売
業務

仕入
業務

管理
業務



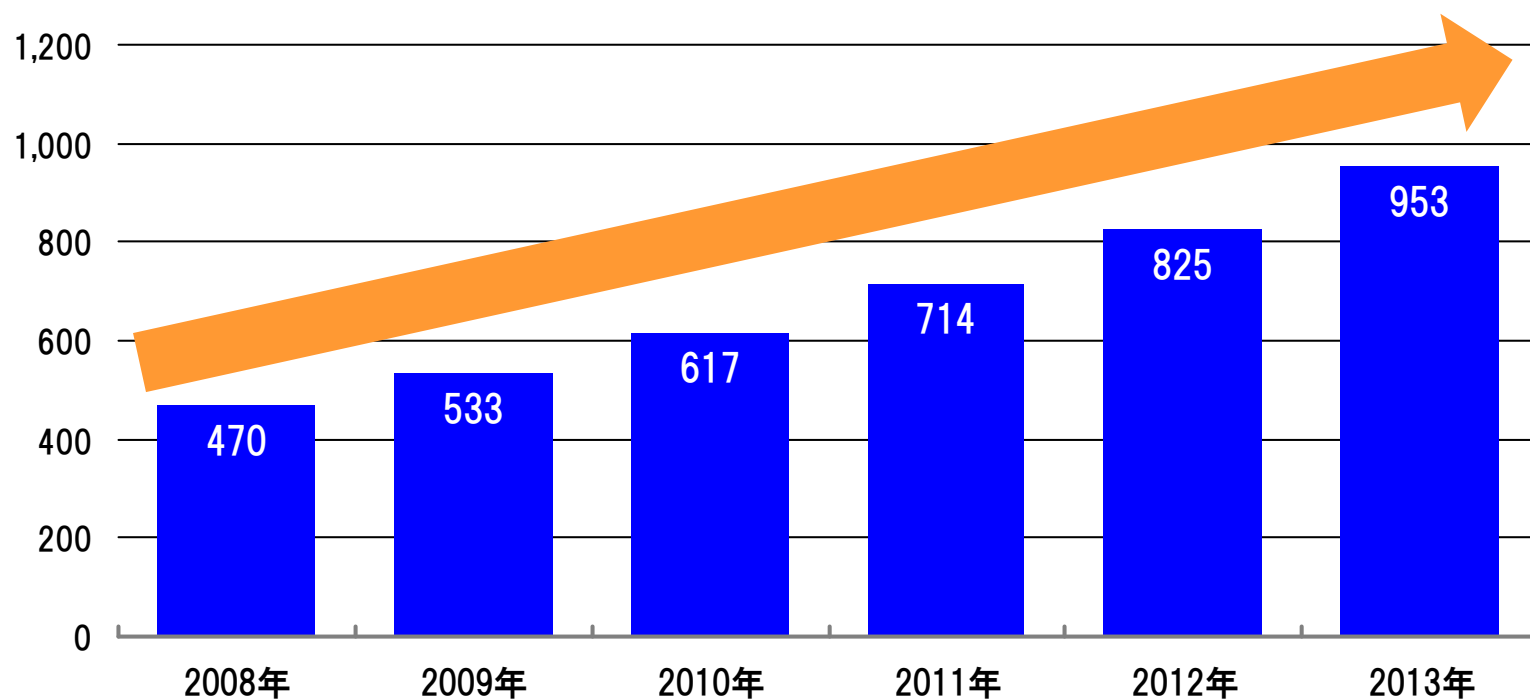
5. 中国事業 (2) 今後も期待できる有望市場

2桁近い高い成長率を継続している有望な巨大市場

高級志向の加速(ハイエンド層の台頭)

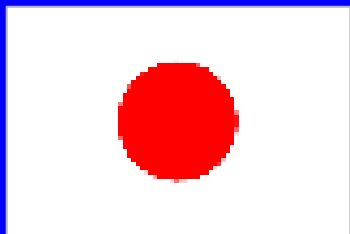
中国包装容器市場(食品)の推移

(万トン)



資料中国包装联合会プラスチック委員会資料(食品用容器)

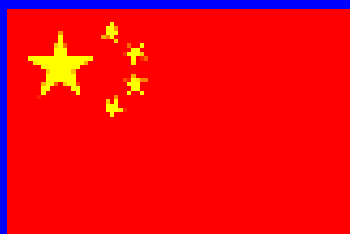
5. 中国事業 (3)顧客からの高い信頼



① 日系
GMS、CVS、外食チェーン等



② 欧米系
大手食品、大手外食等



③ 中国系
高速鉄道、航空、
国家的イベント等

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証又は約束するものではありませんのでご了承ください。

IRに関するお問合せ先：広報部
電話番号：048-540-2604